

神奈川大学21世紀COEプログラム
「人類文化研究のための非文字資料の体系化」研究成果報告書
Report on the Results of “Systematization of Nonwritten Cultural Materials
for the Study of Human Societies” Kanagawa University 21st Century COE Program

日本近世生活絵引

東海道編

Pictopedia of Everyday Life in Early Modern Japan
compiled from *Tokaido Meisyo Zue*

神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議
The Kanagawa University 21st Century COE Program Center

まえがき

私たちは知識を確認し、情報を整理するために古くから事典や辞書を用いてきました。事典や辞書は、原則として調べるための窓口を文字で行っています。五十音順やアルファベット順に配列された見出しが辞書の基本的形態といえます。しかし、文字を窓口にした辞書は、見出し語が読めなければ辞書を利用することができません。その点で限界があります。そこで、考えられたのが、絵を窓口にして調べる辞典です。図解辞典と称される様々な辞典が世界各地で編纂されてきました。それは絵を見て、そこに描かれた事物から単語やその意味を知ることができるもので、誰でもが容易に理解することができます。図解辞典は、辞書編纂に際して新たに図を描きます。説明に必要な限りで図に描きます。したがって、異なる時代や異なる文化が作り出した図像ではありません。

絵引という言葉は国語辞典にも収録されていない新しい単語です。字引に対して絵引という新しい発想に基づいて編纂された辞書を示す用語です。この言葉は日本常民文化研究所編『絵巻物による日本常民生活絵引』という全5巻の刊行を通して世に現れました。今から40年前のことです。日本中世に制作された絵巻物を資料として、主題やストーリーとは関係なく、描かれた事物や人々の行為から生活を知る手がかりを得ようとしたものです。刊行当初はあまり評判にならなかったようですが、次第にその価値が知られるようになり、今では中世の生活や文化、さらに日本文化を考える際には不可欠な研究工具となっております。

私どもの21世紀COEプログラム「人類文化研究のための非文字資料の体系化」を構想するに際して、先輩たちが実現した絵引編纂の継承・発展を一つの柱にすることに何の躊躇もありませんでした。『絵巻物による日本常民生活絵引』を世界的な共有財産にするためのマルチ言語版の編纂刊行、常民生活絵引を引き継ぐ、日本近世生活絵引の編纂、そして日本以外の地域での絵引編纂の可能性を検討するための東アジア生活絵引の編纂の3つの事業を行うことにしました。本書はその第2の課題である日本近世生活絵引の一卷です。『東海道名所図会』という、近世後期に評判になった地誌を素材として編纂に取り組んで参りました。京都から江戸にいたる東海道にそって展開する近世後期の生活を、描かれた図像から把握し、そこに示された情報を絵引という方式で今後の研究のために提供しようとするのが本書です。

絵引編纂を中心的課題とする第一班は、3つの課題に分かれることなく、全員で問題を検討してきました。しかし、対象と取り組むには私たちのメンバーだけでは不十分であることも明らかでした。編纂内容に応じて、研究蓄積のある専門研究者に調査研究協力者として参加を求めました。さらに、必要に応じてそれぞれの分野の専門家にも教示を仰ぎました。惜しみなくご支援下さった皆さんに感謝申し上げます。

本書は私たちが言う試案本です。完成品ではありません。研究過程で編纂された試みの作品です。本書を手にとられた皆さんの率直な批判を得て、より良い絵引にしていきたいと思えます。どうか忌憚のないご意見をお聞かせいただきたくお願いいたします。

2007年12月

神奈川大学21世紀COEプログラム第1班代表
福田 アジオ

日本近世生活絵引

東海道編

目次

まえがき	i
凡例	iv
I 街道と生活	1
1 草津追分	2
2 坂下宿本陣	4
3 宿場の往来	6
4 旅籠の宿入り	8
5 七里の渡し	10
6 秋葉山中の茶店	12
7 大井川の渡し	14
8 大井川を渡る大名行列	16
9 安倍川の渡し	18
10 富士川の渡船	20
II 街の賑わい	23
11 祇園の賑わい	24
12 東三条の送迎風景	26
13 大津の遊郭	28
14 岡崎宿の朝	30
15 三島宿の夕暮れ	32
16 江戸の本屋	34
17 京橋から新橋へ	36
18 日本橋魚市場	38
19 お江戸日本橋	40
III さまざまな生業	43
20 草津の青花紙	44
21 桑名の海	46
22 有松絞	48
23 池鯉鮒の馬市	50
24 駿河湾の地曳網漁	52
25 大森の麦わら細工店	54
26 大森の海苔採取	56
27 大森の海苔作り	58
28 江戸湾の漁業	60

Ⅳ 行事と娯楽	63
29 坂本の山王祭	64
30 石山の蛭狩り	66
31 金勝山の震岩	68
32 津島祭	70
33 吉田天王祭	72
34 三島大社のお田打ち	74
35 箱根塔沢の温泉宿	76
36 品川御殿山の花見	78
Ⅴ 名物・名産	81
37 走井の名水	82
38 大津絵販売店	84
39 草津の姥ヶ餅	86
40 目川の茶店	88
41 梅木和中散の店構え	90
42 富田の焼き蛤	92
43 阿波手の社と漬け物	94
44 藤枝瀬戸の染め飯	96
45 箱根湯本の挽物細工店	98
46 小田原ういろう	100
解題と考察	103
『東海道名所図会』と生活絵引	福田 アジオ 105
『東海道名所図会』の視点	富澤 達三 111
『東海道名所図会』にみる旅と飲食	山本 志乃 117
『東海道名所図会』に描かれた運搬のかたち	中村 ひろ子 123
参考文献目録	129
索引	131

- 1 本書は『日本近世生活絵引』の1巻である。
- 2 本書は、神奈川大学所蔵の秋里籬島著『東海道名所図会』全6巻（寛政9年＝1797年刊）の挿絵から46の描写を選択のうえ、文字説明その他不要と思われる部分を削除し、図像として描かれた事物・行為に番号を付け、それらを表現する語句をキャプションとして与え、また図全体を読み取り解説した。
- 3 図の主題に基づいて以下の5章に編成し、各章の中は原書の記述順である京都から江戸への順序に基づいた。
 - I 街道と生活
 - II 街の賑わい
 - III さまざまな生業
 - IV 行事と娯楽
 - V 名物・名産
- 4 一つの図とそれに対する語句キャプション・読み取り解説を原則として見開き2ページに収録した。従って、対象の図の大きさによって、拡大もしくは縮小しており、原本の大きさとは一致しない。なお、図は必ずしも原本の描いた範囲ではなく、必要に応じてトリミングをし、また詞書きなどは消去してある。
- 5 各図に付ける番号は、以下の原則のいずれかによった。
 - a その図像に与えたテーマに即して、テーマに近い事物から周辺的な事物へと付ける。
 - b 遠近法に従い、図像の中の近いところから遠いところへと付ける。
 - c 描かれた図像内容の時間の展開にそって付ける。
 - d 左上から右下へ付ける。
- 6 番号に対する語の記載に際しては、まとまった全体についての語の場合は○を、また行為を示す場合には□を、それぞれ番号に付けた。
- 7 各事物・行為に付ける語句は、以下の基準によった。
 - a 原則として事物単体にキャプションを付ける。
 - b 名称は図像が描かれた江戸時代の表現・表記を優先させ、()書きで出典を示した。頻出する出典は略称を用いた。略称は以下の通りである。当時の表現が確認できない場合は、現代語で付けた。
 嬉遊笑覧 → 嬉遊 守貞謾稿 → 守貞 旅行用心集 → 用心
 東海道中膝栗毛 → 膝栗毛 和漢三才図会 → 和漢
 - c 所作・行為のキャプションは現代語で付けた。
 - d 推測・推定・想像によるキャプションはできるだけ避け、推測・推定・解釈に及ぶことは読み取り解説で記述した。
 - e 挿絵のなかに書かれた文字は読み解いて記載した。事物名称を記載した後に「 」を付けて記した。(例：旅籠「駿河屋」)
- 8 本書の編纂は共同研究の方式で行われ、研究参加者4名全員で検討し、完成させたものであるが、各図の読み取り解説については原稿を作成した者の個性が残されているので、各文末に括弧書きで担当者の名字を記載した。
- 9 本書編纂過程で獲得した知見は、各人が解題と考察編として記述した。
- 10 巻末にはキャプションとして付けた語句についての五十音順索引を付した。